

39 シヤント診察時におけるCL-Gapの有用性

医療法人栗山会 飯田病院 透析室
泌尿器科
山梨大学医学部附属病院血液浄化療法部

秦 幸久 馬場田 純 桜井謙次 宮下政明
梅田俊一
深澤瑞也

目的；

シヤント診察時に医師の聴診・視診・触診・血管造影に合わせてCL-Gapを算出することにより診断の役に立つか。

また、PTA前後で採血を行い、CL-Gapの有用性を確認する。

対象および方法；

透析室スタッフがシヤントトラブルシートを用いてシヤント診察が必要と思われた患者さんを対象に採血を行い、シヤント診察時にCL-Gapを算出して医師に提出する。

PTAを行なった場合はその後、採血 CL-Gapを算出する。

対象 : 14名(男性9名 女性5名)

年齢 : 65.9 ± 11.8(歳)

透析歴 : 8.3 ± 5.5(年)

採血条件: PTA前後共に透析2日空きに採血を行なう。

結果；

患者氏名	前	シヤント診察	後
A	24.1	PTA	6.1
B	3.5	PTA	6.6
C	12.2	PTA	8.2
D	13.1	PTA	14.1
E	7.7	PTA	0.5
F	14	PTA	13.5
G	5.9	PTA	6
H	3.4	PTA	3.7
I	6.1	PTA	10.3
J	22	PTA	21.5
K	22.4	PTA	15.4
L	0.5	PTA	0
M	7.6	PTA	10.5
N	6.2	PTA	3.3

表1

秦 幸久 (臨床工学技士)

栗山会 飯田病院 〒395-8505 飯田市大通1-15

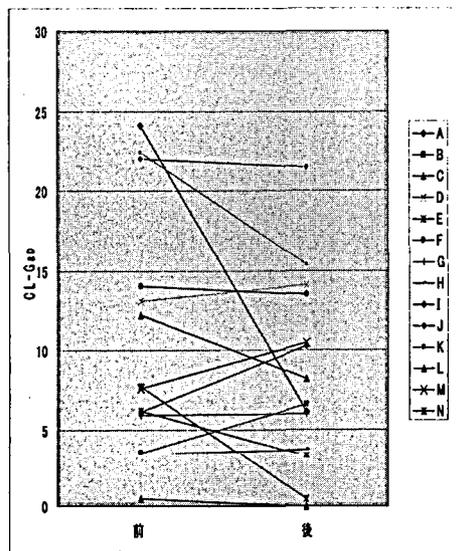


図1

結果を表1・図1に示す。

PTA前後でCL-Gap値の低下傾向は見られたが、全ての患者が基準値に改善されることはなかった。

考察；

シヤント診察時にCL-Gapを算出するのは有効的だと思われるが、全患者が基準値以内とは限らず、患者一人一人の経時変化を記入した方が良いとの医師からのアドバイスがあり、又、CL-Gapに影響する要因は血液再循環・狭窄部位・脱血不良による実血流量低下・血液ポンプ校正ミス・膜の経時的劣化・穿刺針の径・体液量・尿毒素の体内不均一除去など大変多く、全患者に有効活用するにはより細かな情報を記入・管理できるワークシートの作成が必要であると考えられる。

